

令和3年度第3回学校運営協議会 概要

嶺北高等学校

日 時 令和4年2月17日(木) 18:00～19:30
会 場 嶺北高等学校 第一会議室

◇委員名簿

No.	区 分	氏 名	出欠	No.	区 分	氏 名	出欠
1	学校関係者	山田 憲昭	○	6	地 域 住 民	大西 千之	○
2	保 護 者	神野 理江	○	7	地 域 住 民	徳橋 正人	○
3	学校関係者	岩本 誠生	○	8	地 域 住 民	山下 由子	
4	学校関係者	高石 清賢	○	9	地 域 住 民	油野 昭彦	○
5	学校関係者	松岡 寛		10	地 域 住 民	山首 尚子	○

学校運営協議会事務局 和田 拓(嶺北高校 教頭)
高知県教育委員会 土方 聖志(高等学校課 指導主事)

1 委員委嘱

高知県教育委員会より新委員である 大西 千之 氏に委嘱状を交付。

2 開会行事

会長挨拶。

3 協 議

○学校評価について

学校からの説明事項は「令和3年度学校経営計画・学校評価」。以下の質疑応答等が行われた。

【徳橋委員】

- ・「生徒理解・生徒支援」のいじめ件数(2件・解消済)や長期欠席者(1名)について、個人が特定できない範囲でよいので概要を。

【山田委員】

- ・いじめ2件のうち1件は中間評価の段階で発生していたもの。1学期に男子生徒から訴えがあった。以前仲の良かった下級生の男子がちょっかいを出してくるが、訴えてきた子自身は大人になりかかっており、ちょっかいを出されても嫌だという気持ちが強く「いじめられている」という表現で学校に訴えた。両者が対面をして、今後はそういうことをしないという話し合いをして解消している。
- ・もう1件は、今年1月にホーム担任との面談で女子生徒からSNSの書き込みについて相談があり、調査したところ1学期までさかのぼって7月頃の出来事

だった。大きなきっかけとしては、いじめられたと訴えた生徒からの暴言に近いような発言があり、それへのやり返しという意味ではないが、そういうことを言われたということを別の生徒がSNS上で同じ言葉を使って返した。聞き取っていく中で、いじめられたと訴えた生徒は思ったことをすぐ口に出してしまうということが分かり、発言を聞いた3名ほどの生徒がSNSで同じ言葉を返していた。両者の対面を設け、最初のきっかけを作った本人と同じような言葉を返した方の両者とも問題があるという視点で両方に振り返りをさせた。今後はそういうことのないように、半年ほど経てお互い積もっていることも吐き出させるような指導をして解消したと認識している。

- ・長期欠席の生徒は中学校時代も長期的に休んだ経験のある生徒だが、本校に入学後の1学期間、4月～7月の間はよく頑張っていて登校していた。ただ、夏休みを挟んだ頃から登校できなくなり、通院や自宅での療養もあって長らく欠席という状態が続いている。学校としては、貸与しているタブレットを活用したSCとのリモートで面談など試みてはいるのだが、本人や家庭の方がまだ積極的な状況にはなっていない。来年度4月からは頑張っていて通いたいという意向は聞いているので、やり直し・学び直しを支援していきたいと考えている。

【岩本委員】

- ・「学校の振興」について、志願者が連携中学から31名、それ以外が12名、計43名。40名を超えていることに関係者も安堵しているところがあるのでは。連携中以外の12名については寮や下宿の対応もとっていかなくてはならない。
- ・連携中以外の志願者数の維持を長期的に考えなくてはならないが、下降気味であることに危機感、将来的な不安を感じる。「れいほく未来創造協議会」に今後も努力をしていただいて志願者を募るということになると思うが、今年はコロナ等の問題でかなり影響があり人数が少なかったということであれば一時的なものという判断でよいかと思うが、そのあたりの見込みは。

【大西委員】

- ・令和3年度については、説明会など可能であれば対面のブースを用意して行う計画だったが、実際はリモートになり、そのような中で学校の魅力を十分に伝えられるかという懸念はあった。ただ、できるかぎりの露出・見せ方をして、3年間の蓄積を説明してきた。全国的に募集校が増えたという状況や、もちろんリモートの影響というところもあると思うが、どちらかというところ健闘している方ではないかと考えている。今後も学校との連携を進めていきたい。365事業は成果が出ている。2年生の1年間だけ留学する制度だが、来年度も嶺北高校には2名が留学する予定となっており、そういう面では、学校の魅力は伝わっていると言えるのではないかと。また、今回、地域からの志願者数が増えているのは、学校を主体として魅力化が進んでいる成果ではないかとも考えてい

る。今後も積極的に取り組んでいきたい。

【岩本委員】

- ・地域からの志願状況は約65%となっている一方で、土佐町中学で野球をやっている生徒5名ほどの中では2名が梶原高校を希望し、3名ほどが市内の学校を希望しているという状況である。その5人が嶺北高校の野球部に来てくれればある程度の人数になるかと期待をしていたが、実際にはメンバーが揃う段階までいけるだろうかという不安がある。経緯が分からず生徒や保護者の思いもさまざまにあったのではないかとも思うが、残念ではある。
- ・志願者全体の数字が40名を超えているということについては素晴らしいこと。

【油野委員】

- ・「社会性の育成」にある携帯・スマホ使用に関する県独自アンケートの結果については、時代の流れを考えると仕方のない部分もあるだろうし、県全体の率から見るとまだ低いとも思う。一方で、先ほど山田委員の話にもあったが、SNSを通じて隠れたところで問題が起こるなど、学校として広がりを抑えられない面もあるのではないか。そのような中で生徒に対してどのように指導や授業を行っているか。

【山田委員】

- ・職員も一番憂えているところで、なかなか改善できない。「見直しのポイント」にも記載したが、家庭での使用時間であるので、PTAや寮との連携を整えていくと同時に、適切な使い方を今後も継続して指導していく。現在は、NTTや警察署に来校して講演をしていただくなどしている。事件に巻き込まれたような事例の紹介など、子どもたちはまさか自分たちがというような思いで聞いている可能性もあるとは思いますが、そういった取り組みを継続していく。
- ・全ての規約を全部載せて生徒に配布する「規約集」というものがあるが、来年度はそこにもSNSの正しい使い方についての記載をする。しっかり指導していく体制を改めて作っていきたい。
- ・保護者の方や寮にお願いしていることに3つのルールというのがあり、①12時まで②宿題が終わってから③最大3時間以内、以上の徹底にご協力をお願いしている。年度当初にPTA総会などでお知らせをしているが、コロナ禍の中でPTA総会がなくなったりしたことで、保護者の方に我々の協力依頼が十分に伝わっていないということもある。伝え方を見直したいとも考えている。

【徳橋委員】

- ・物理的に、家庭であれば親が、寮なら舎監さんがそれぞれあずかるなどしない限りはなかなか難しいのでは。

【山田委員】

- ・うまくいっている事例は、家庭内でしっかりルールを作っておく家庭、あるいは、地域で、小学校～中学・高校まで地域ぐるみでスマホ・携帯の

指導を全体でやっていこうという幡多や南国市などの取り組み。PTAの研修会でお話を聞いたところでは、保護者の方がしっかり動いておられるという印象を受ける。

【徳橋委員】

- ・使い方としては、ゲームや通信をしているということか。

【山田委員】

- ・ゲームや動画鑑賞、友人とのやり取りなどの通信。勉強以外の時間で出てくる数字なのでそういったところ。無制限に使えてしまうとつい時間を忘れて見てしまうということもある。睡眠時間への影響が大きく、家庭や寮でしっかり見ていただくというのが、健全・健康な生活に結びつくとともに学習時間の確保にもつながる。高知県全体はもとより日本全国の問題。

【山首委員】

- ・スマホやSNSは本当に現代の全体的な問題だと思うが、正直なところ、高校生になって保護者がいくら言っても、その時点では遅いのではないかという気がする。中学校の時点から主体的に、友達同士でのルールやチェックなど、当事者として自分たちが自分たちをどうコントロールしていくのかという教育が積み重なっていかないと、なかなか難しいのではないかと思いつけている。寮で携帯を取り上げるにしても、個人情報が入ったものを取り上げるようなことは実際にはまずできないだろう。当事者として主体的に自分たちの危機管理、自分たちの管理をしていくという学習プログラムになるのではないか。
- ・不登校の生徒さんについては、精神疾患なのかどうかといった詳しい状況は分からないが、学校に復帰できないままで高校3年生を迎えていくということになると、常々言っているように、社会へ出てから、いわゆる社会の中で「見えていない」子どもさんが家庭にいるという状況が生まれる(注)。保護者自身が医療に長けてないのか、あるいは子どもの状況を分かっていないのか、どういう状況なのか全然分からないが、保護者の状況も含めて、どう支援をしたらいいのかということ、学校以外とどうつながっていくのかということ、早めに考えておかないと、学校の先生の方だけでは無理なのではないかと思う。特に精神疾患から19歳で統合失調症を発症して、就職したものの社会には適応できなかったという例がたくさんあるので、そういったことを考えると、どういった支援を受けるのか、早いうちから考えておかななくてはならない。

(注) 社会福祉では、ヤングケアラーや未就学児など、抱えている課題や存在などが社会から気づかれなくなってしまう境遇にあることを、社会から「見えない」「見えていない」と捉えている。

- ・いじめの問題については、先ほど聞いたところでは、子ども同士・生徒同士のトラブルなのか、それともいじめなのか、という判断の部分で非常に幅が広いという印象を受けた。私たち大人同士でもそういったトラブルはあって、大人として解決していく。高校生になればもう1人の大人であると考えたと、お互

いがどう解決していくのかをサポートしていくことになるのではないかと。誰が見ているか分からないSNSに上げたということについては、嶺北高校の窓から汚い言葉を前の道路に向かって発するのと同じことなのだとすることを本人が自覚できるようになればと思う。

【徳橋委員】

- ・不登校の生徒さんへの、カウンセラーなど専門家の関わりは。

【山田委員】

- ・医療にはかかっており、専門の病院に通っている。ドクターには我々も会っており、アドバイスや相談の体制も整えている。
- ・いじめについての法律も変わり、本人がいじめと言ったらいじめと認知する。概念は非常に広いが、本人がいやだと思ったことは概ねそこに該当する。この2件は、本人たちがいじめという言葉を使っているので、学校がそれを否定することはしていない。それはいじめではなくてこうである、というような指導はせず、実質的にトラブルを解決するような方法で進めていった。

【高石委員】

- ・「社会性の育成」の「3年生進路決定率」が32／36名で88.9%とあるが、残り4名の状況は。

【山田委員】

- ・残り4名のうち1名は、私立大学に合格しているが国公立大学を目指して最後まで頑張っているという生徒。あと2名、私立大学は受験していないが同じように国公立大学を目指して勉強している。残り1名は就業支援を受けるということで、仕事に就く手前の段階で、町や県の専門家のアドバイスを受けながら徐々に人間関係や社会性、就労に必要な技術などの支援を受けることに結びつけていく、という方向で取り組んでいる。

【高石委員】

- ・「学校の振興」の「年度末評価」には、連携中学校や連携中学校以外からの志願者数のほかには何も書かれておらず「中間評価」の書き方と異なっているが、何もしていないということなのか。

【山田委員】

- ・概ね「中間評価」までで済んでいるので「年度末評価」の欄では省略してある。「年度末評価」の欄には「現状と目標」に掲げた内容について追跡したものを記載している。そのほか取り組んできたことは概ね中間評価までで完結している。

【高石委員】

- ・「中間評価」以降は取り組みがなかったということか。

【山田委員】

- ・なかったという訳ではないが、どの項も「現状と目標」で①、②、③とナンバリングしたものに対しての現状を「年度末評価」として記載している。空白ができ

ているのは「中間評価」では様々なデータを取り上げていたで、その分が空いたということ。

【徳橋委員】

- ・昨年度の「年度末評価」には「中間評価」と同じように様々なデータの記載がされているが。

【高石委員】

- ・何もしていないという訳でないのであれば、同じような内容でも記載しておくべきではないか。評価しづらくなる。

【山田委員】

- ・別紙「活動記録(簡易版)」の方に記載したもので言えば、探究学習では12月のマイプロジェクト発表会で4チーム発表を行い、うち2チームが1月のマイプロジェクトアワード西日本サミットに書類選考を通過して参加している。また「さめうらワカサギ甲子園」はチームを超えての探究だが、これらを記載していきたい。

【高石委員】

- ・昨年度の志願者を見ると連携中学校から22/35名でそれ以外が11名であったのに対して評価は「A」となっている。今回、それ以上に志願者が増えている中で評価が「B」に下がっている理由は。

【山田委員】

- ・この項については、昨年度も目標値70%を超えていないという理由から校内ではいったん「B」としていたものを、この場でご意見をいただき「A」に上げたという経緯がある。評価していただければ「A」でも問題ないと考えている。

【岩本委員】

- ・評価「A」でよいと思う。

【高石委員】

- ・評価「A」でよい。

【徳橋委員】

- ・自分もそう提案することを考えていたので、「学校の振興」についてはこの場で、評価「A」ということでよろしいか。
(承認)

【山首委員】

- ・委員だけではなく地域の方からも良かったという声が聞こえてきており、皆さんのそういう気持ちが広がっていくということを感じている。努力の成果だと思う。

【高石委員】

- ・連携中学校からの志願者は1名減ったか。

【山田委員】

- ・取り消しがあった。それ以上は言えないが、そのために1名減っている。

【神野委員】

- ・高校生のスマホを取り上げることについては、保護者としてチャレンジしたが難しかった。勉強する場所にスマホは必要ないということで、別のところに置いておくように何度も声掛けはしてきたが、勉強で使うという面もあってなかなか難しい。山首委員が言われたように、高校生になってからではなく、それまでの過程で、スマホ・SNSの使い方について伝え教えていくべきではないかと感じた。
- ・いじめについては、いじめはいじめであり言われた本人が傷ついたということで、軽い重いという程度の問題ではないと思うが、それをいじめとして声を上げられること、「助けて」と言えることは大切であり、それを受けて解消に向かったという環境は評価できるのではないか。
- ・長期欠席の生徒さんについては、心配されるこれからの将来のことを考えるとフォロー体制が重要になってくると思う。
- ・自分の子も3年生であり進路など気になることもあるが、全体的には評価できるのではないかと感じている。

【徳橋委員】

- ・その他なければ評価に進みたい。まず「学力の向上」については、学力定着把握検査の結果は良かった一方で、県独自アンケート「自主学習の仕方が理解できている」の回答や読書週間の調査結果が下降していることから評価「A」とするのは難しく、学校の評価どおり「B」とするのが適切と考える。
- ・「社会性の育成」についても各数値に低下傾向が見られるので、引き続き評価「C」となるのではないか。
- ・「授業改善」については昨年と同様の結果であることから評価「B」、「生徒理解・生徒支援」は悩ましいところで、昨年度は件数0ということで評価「A」であったが、本年度の件数が多いのか少ないのか、「B」か「C」かで悩むところ。いじめの解消や長期欠席者へのフォローにも取り組んでおり、学校側も十分対応しているのではないかと考えると「やや不十分」は該当しないのではないか。評価「B」でも良いのではないかと考えている。

【山首委員】

- ・神野委員が言われたように、声を上げられたことや、それに対応するフォローができて、こういうことをしっかりと受けとめていくという生徒指導と生徒支援ができたという意味で、その評価で良いのではないか。
(承認)

【徳橋委員】

- ・「学校の振興」については、さきほど意見もあったように評価「A」としたうえで、高石委員から指摘のあった記述を一任していただければ、私と学校で協議のう

え記述するようにしたい。

- ・「働き方改革」は例年並みとのこと。ただ、どうしても22名中の2名の先生の解消・改善が難しいようであるが。

【山田委員】

- ・業務の都合上どうしても仕方がない部分があり、その業務を担当すると誰が引き受けてもこうになってしまうという側面がある。ただ、本人の健康などについては、我々もしっかり声かけをして、休暇をとる指導などにも気をつけている。

【徳橋委員】

- ・努力していただくということで評価「B」とさせていただいたらと思う。
- ・上部「学校関係者評価」の3項目については、「学力の向上」を評価「B」、「社会性の育成」を評価「C」、「チーム学校」は評価「B」として、所見欄への記述は昨年度と同様に私が協議内容を整理して記述するという方法でよろしいか。

(承認)

4 連絡等

○スクール・ミッション／スクール・ポリシーについて

- ・学校より資料説明。全国は令和6年度まで、高知県は令和5年度までにスクール・ミッション／スクール・ポリシーを策定し公表する計画。本校では策定に向けた具体的な検討を令和4年度に行うため、来年度の当協議会での協議事項となる予定であることを案内。

○生徒の活動記録について

- ・学校より本年度後半の内容を中心に資料説明。
- ・カヌー部員の在籍状況等について質疑応答。

○令和4年度第1回委員会について

- ・5月中下旬頃に予定することを確認。

○委員挨拶

- ・保護者代表である神野委員より、来年度の委員交代に向けて挨拶。

5 閉会行事

会長挨拶。